

質問 同じ地域で暮らすみんなでルールを共有する、ということがとても重要でとても難しいと感じます。ルールを共有するうえで、どのようなことに留意すればよいのでしょうか。

【栗又氏】

まず、「ルールを守らない」という発想ではなく、「ルールを知らないのではないか？」という発想に一度スタートラインを変えてみましょう。そこで知らないようなら、伝えることが大切です。ルールを守りたいと思っている人がほとんどです。守らない人は日本人にもいます。これはどこの国でも同じではないかと思えます。そこで、できれば具体的に説明をします。それでも納得できないようなら、なぜそのルールがあるのかについて説明すると理解してもらえることが多いです。

質問 多文化共生社会の実現に向けて、もっとも苦勞されていることと、その実現過程での喜びや嬉しさの体験を教えてください。

【栗又氏】

一番苦勞するのは、お互いの譲れないことがぶつかる時だと思います。よく「価値観の違い」と言いますが、それだと思います。譲れないものがぶつかるとう解決は難しいです。その場合の対応は私もまだまだ勉強中です。少しでも妥協点が見つかるよう話し合うということも大切です。嬉しいことは、今回の研修やイベントのようところでみなさんが変わっていくところを目の前で見ている時です。「外国人は怖い。」と言っていた方が、最後は肩を組んで写真を撮っている姿を見るとやってよかったなと思います。

質問 外国人とのトラブルへの対応はどうすればよいか。(畑の草を採って食べる人がいて困っている) 伝え方はどうすればよいか。

【栗又氏】

トラブルがあった時は、まずなぜそのようなことが起きたのか原因を探ってみて（なぜ草を食べるのか）、その原因からなぜダメか、これならいいなどのお話をしていくのがいいのかと思います。人の畑に入ることは日本ではダメで、もし何かあったとき（大根がなくなっていた、畑が荒らされていたとき）には疑われてしまうから入らない方がいいなどの説明をして伝えるのはどうでしょうか。

過去に実習生が移動中に草を採っていたことがあります。また、寮の前に流れている用水路のヘリの草を入り込んで採っていたことも。そのとき、まずは話を聞きました。すると「これは草ではなく、私の国では食卓にでてくる野菜です。こんなところにあって勿体無い、ラッキー。」と思って採ったとのこと。どちらにも「へえ。そうなんですか！それを見て、すぐわかるのはすごいですね！」と伝え、「でも、道にある草は汚い」「用水路に入るのは危ないし、ここは立ち入り禁止だから」とダメな理由を伝えて分かってもらいました。